

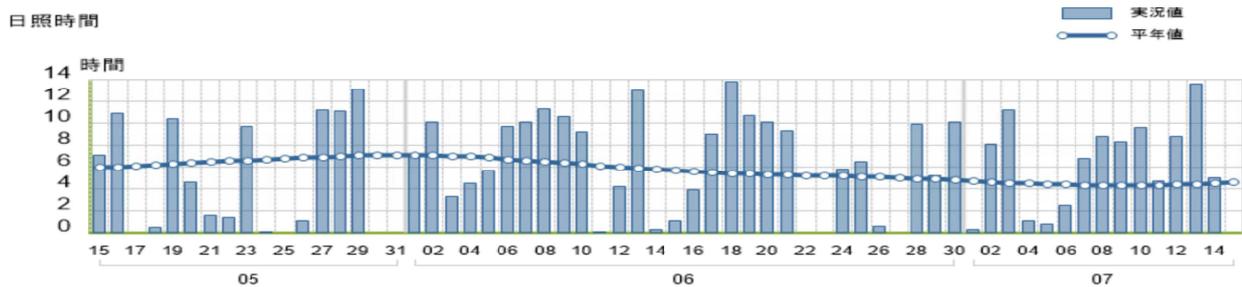
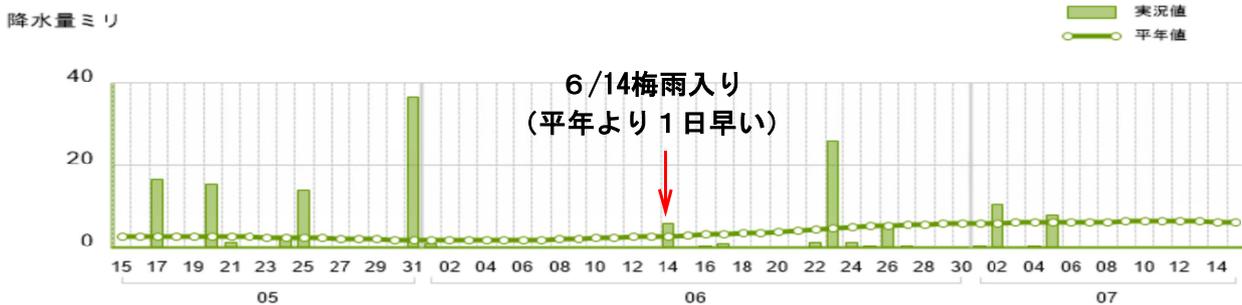
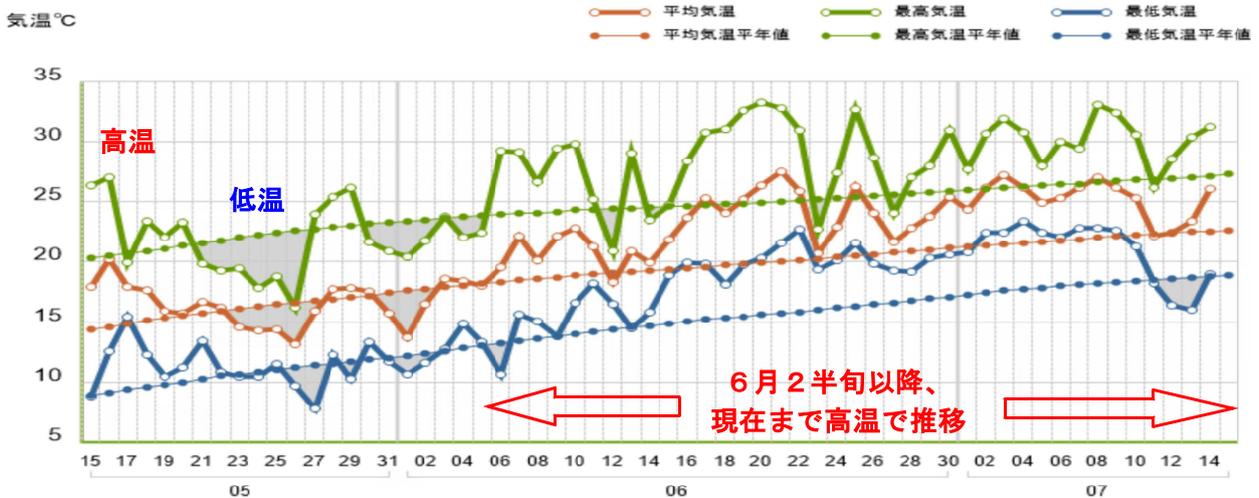
雄勝地域の

稲作だより

令和7年7月15日
 雄勝地域振興局農林部
 農業振興普及課
 TEL 0183-73-5180
 FAX 0183-72-6897

出穂期早まる見込み！いもち・カメムシ対策は万全に。
 有効茎歩合と登熟歩合の向上が鍵。葉色の急激な低下に注意。

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：5月15日～7月14日）



	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
5月上旬	13.3℃ (+0.1℃)	41.0mm (158%)	57.2h (90%)
5月中旬	16.2℃ (+2.1℃)	35.0mm (123%)	54.2h (100%)
5月下旬	15.8℃ (±0℃)	55.0mm (185%)	49.3h (71%)
6月上旬	19.2℃ (+1.3℃)	1.0mm (6%)	81.7h (122%)
6月中旬	22.7℃ (+3.5℃)	7.5mm (20%)	66.2h (112%)
6月下旬	24.1℃ (+4.1℃)	35.5mm (69%)	47.4h (96%)
7月上旬	25.9℃ (+4.7℃)	19.5mm (38%)	57.5h (130%)

【向こう1か月の天候の見通し（7月12日～8月11日）】：仙台管区気象台 7月10日発表
 期間の前半は**気温がかなり高い状態が続く**見込みです。

期間の前半の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

期間の後半の天候は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

- 1週目（7/12～7/18）：気温は、高い確率が80%です。
- 2週目（7/19～7/25）：気温は、高い確率が80%です。
- 3～4週目（7/26～8/8）：気温は、高い確率が50%です。

【生育状況】

7月15日に実施した定点調査結果（あきたこまち8か所）は、草丈73.0cm（平年比113%）、茎数450本/m²（同比88%）、葉数11.5葉（同差+0.2葉）、葉色（SPAD値）41.8（同比95%）となっています。

平年と比べて、草丈は長めで、葉数は平年並からやや進んでおり、葉色は平年並からやや淡く推移しています。

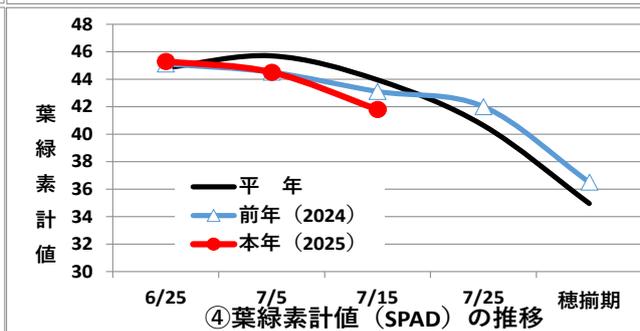
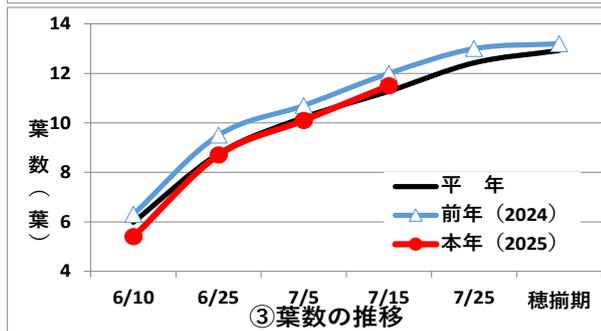
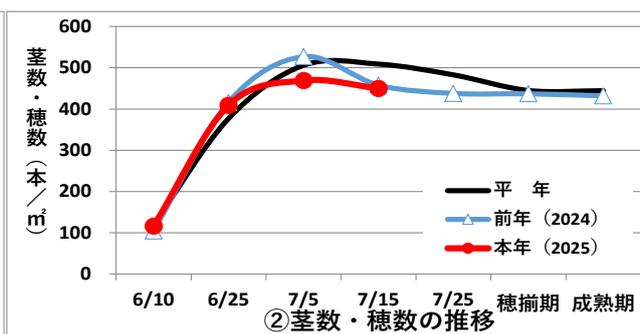
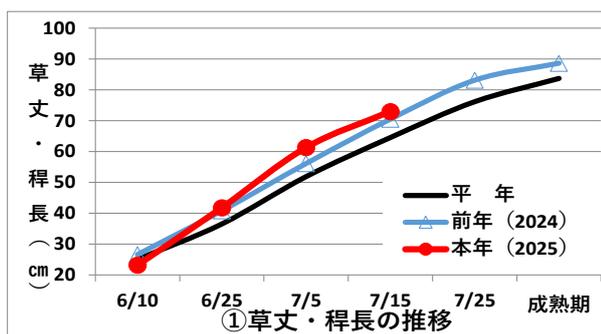
6月以降日較差が小さく、分けつの発生が緩慢だったことに加えて、幼穂形成期が平年よりかなり早まっており、生育ステージの関係から、茎数は平年よりやや少なくなっています。

また、全調査地点で幼穂の発育が確認されています。

	6月10日調査結果			6月25日調査結果				7月5日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	23.2	116	5.4	41.7	406	8.7	45.3	61.3	469	10.1	44.5
平年	25.1	119	6.0	36.6	377	8.8	44.8	51.9	506	10.2	45.7
平年比	92%	97%	-0.6	114%	108%	-0.1	101%	118%	93%	-0.1	97%
前年	26.6	104	6.3	40.8	416	9.5	45.1	56.1	527	10.7	44.5
前年比	87%	111%	-0.9	102%	98%	-0.8	100%	109%	89%	-0.6	100%

	7月15日調査結果						
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育量 (×10 ³)	栄養診断値 (×10 ⁵)	生育型
本年	73.0	450	11.5	41.8	32.9	13.7	IV型
平年	64.6	509	11.3	43.9	32.9	14.4	IV型
平年比	113%	88%	+0.2	95%	—	—	—
前年	70.5	458	12.0	43.1	32.3	13.9	IV型
前年比	104%	98%	-0.5	97%	—	—	—

※各数値はあきたこまち8か所の平均値
 ※平年値は過去10年の平均値
 ※田植日平均：本年5月22日（平年5月22日、前年5月21日）



【当面の主要な技術対策】

1 今後の水管理について

今年は6月2半旬以降、高温に推移したことから、平年より水稲の生育が進んでおり、7月15日に実施した定点調査では、全調査地点で幼穂の発育を確認しています。

また、田植えが早かったところでは、まもなく減数分裂期を迎えるほ場もあります。

※減数分裂期は、葉耳間長±0cmの主茎が半分以上みられる頃で、出穂期前10～12日頃です。

あきたこまち（中苗）の出穂期予測（右表）では、出穂期が平年より6～8日早まるものと見込まれます。

水管理にあたっては、以下の点に注意しましょう。

出穂期の予測		
田植日	出穂期	平年差
5月15日	7月26日	8日早い
5月20日	7月30日	6日早い
5月25日	8月1日	7日早い
5月30日	8月4日	6日早い

- 品種はあきたこまち（中苗）。
- 田植え翌日から7月14日まではアメダス湯沢の平均気温を、それ以降は平年値を使用。今後の観測値によって、予測月日は変動します。
- ※出穂期は、全茎数の40～50%が出穂した日。

○ 幼穂形成期～出穂まで

幼穂の発育と一穂粒数の確保には、幼穂形成期以降にほ場の水分が適切に保持されていることが重要ですので、間断かん水で土壌へ水分と酸素を供給し、稲体活力の低下を防止します。

特に、この時期は根が地中深く伸長しますので、成熟期後半までの登熟をスムーズに進めるため、間断かん水を心掛けましょう。

中干しが十分に出来なかった場合や、生育量が不足して中干し開始が遅れたほ場では、中干し終了後の間断かん水で、落水期間をやや長めにし、徐々に田面が乾くようにしましょう。

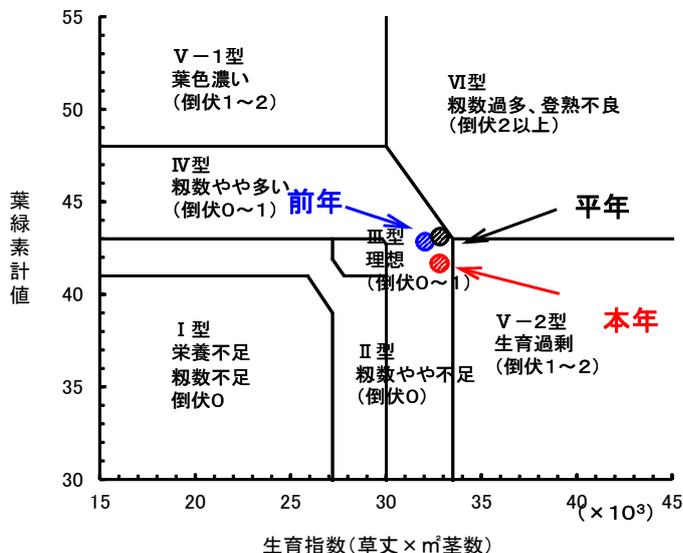
○ 出穂期

出穂の時期は、稲が最も水を多く必要としますので、出穂したら10日間は湛水管理（はなすい花水）とし、田面の水を切らさないように管理します。

2 あきたこまちの穂肥判断

① 穂肥は減数分裂期の追肥を基本とします。幼穂形成期の葉色が濃く、草丈が62cm以上、または減数分裂期に草丈が74cm以上で、倒伏の危険性が高まります。葉色が濃い場合は、穂肥を控え、必要に応じて倒伏軽減剤の散布を考慮します。

② 一方、葉色が極端に低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下、登熟歩合の悪化等を招きます。生育量・葉色・幼穂の発育状況等をよく確認しながら、窒素成分で1～2kg/10a程度を目処に、追肥を検討してください。



幼穂形成期における栄養診断(県南)

生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2kg	2kg
II型	2kg	2kg
III型	ムラ直し1kg	2kg
IV型	なし	2kg
V-1型	なし	ムラ直し1kg
V-2型	なし	ムラ直し1kg
VI型	なし	なし

(注)目標収量 570kg/10a、あきたこまち

○幼穂形成期（7月15日頃における）理想生育量（県南地域）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育指数 (×1000)
理想値	62	463	10.9	42	28.7
上限値	64	484	11.0	43	30.0
下限値	60	443	10.7	41	27.2

※生育指数＝草丈（cm）×茎数（本/m²）

○減数分裂期（7月25日頃における）理想生育量（県南地域）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育指数 (×1000)
理想値	74	437	12.3	38	32.3
上限値	75	454	12.5	39	33.5
下限値	72	420	12.1	37	30.8

※生育指数＝草丈（cm）×茎数（本/m²）

【倒伏軽減剤】

薬剤名	使用目的	使用量(10a)	使用時期	使用方法
ロミカ粒剤	節間短縮	2～3 kg	出穂25～10日前	湛水散布
スマレクト粒剤	節間短縮	2～3 kg	出穂20～7日前	湛水散布
ビビフルフロアブル	上位節間伸長抑制	75～100ml/50～150 ^粒	出穂10～2日前	茎葉散布

- ③ 育苗箱全量施肥や肥効調節型肥料（100日タイプ）を使用している場合は、これから肥効が現れますので、基本的に追肥は控えましょう（生育状況によっては必要な場合もあります）。

3 病害虫防除対策

【葉いもち】

農作物病害虫防除対策情報第4号（令和7年7月11日：県病害虫防除所発表）では、葉いもちの全般発生開始期はやや早い、発生量は平年並～やや多いと推察されています。

また、BLASTAM法による感染好適判定では、アメダス湯沢で6月15、26日に感染好適条件、6月24日、7月5日に準感染好適条件が訪れました。

ほ場を巡回し、葉いもちの発病がないか確認してください。
特に、葉色の濃いほ場や生育過剰なほ場では注意が必要です。



写真 葉いもちの病斑

<今後の防除対策>

- ① 田植え時に施用したいもち病防除剤の薬効は、7月中旬以降、低下してきます。
- ② 水田内で発病を確認した場合は、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ノンプラス剤又はブラシン剤）の茎葉散布を行います。その後、必要に応じて出穂15～7日前にコラトップ粒剤を散布するか、出穂直前（トライフロアブルかビーム剤）と穂揃期（トライフロアブルまたは、ラブサイド剤）に茎葉散布を行います。

【斑点米カメムシ類】

病害虫発生予察情報7月予報では、斑点米カメムシ類（第2世代）の発生時期はやや早く、発生量はやや少ないと予想されています。

<今後の防除対策>

- 出穂期前の畦畔草刈りはそろそろタイムリミットです

出穂期に近い時期の畦畔草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込んでしまうこととなります。適期内（出穂期15～10日前まで）に繁殖地となる農道・畦畔、休耕田等の除草を地域でまとめて行いましょう。

出穂期15～10日前までに畦畔草刈りが実施できなかった場合は、出穂後のカメムシ薬剤散布後、7日以内に実施してください。

次回の発行は、7月下旬の予定です。